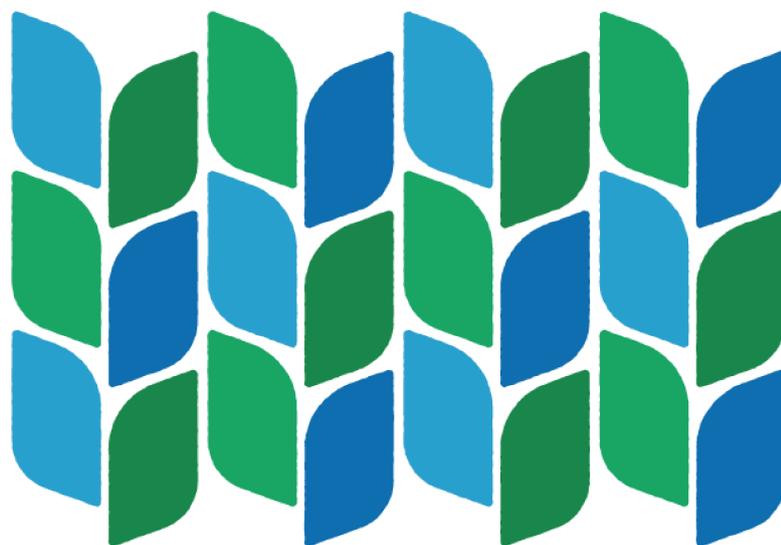


# 那須塩原市議会 福祉教育常任委員会 行政視察報告書



視察期間：令和7年10月23日（木）～10月24日（金）

- 1 視察日：10月23日（木）  
視察地：NPO法人自殺対策支援センターライフリンク  
（東京都千代田区）  
内 容：自殺対策及び自治体との連携について
- 2 視察日：10月23日（木）  
視察地：一般社団法人青草の原 れもんハウス（東京都新宿区）  
内 容：子どもショートステイについて
- 3 視察日：10月24日（金）  
視察地：杉並区立第一小学校（東京都杉並区）  
内 容：地域と学校の連携について
- 4 視察日：10月24日（金）  
視察地：武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）  
内 容：複合施設の運用について

## 福祉教育常任委員会

委員長	佐藤 一則	副委員長	林 美幸
委員	松野 真弓	委員	星野 健二
委員	齊藤 誠之	委員	平山 武
委員	中村 芳隆	委員	金子 哲也

【随員：岩波ひろみ、黒沢大輔】

**NP0法人 自殺対策支援センター  
ライフリンク  
自殺対策及び自治体との連携につ  
いて**

視察地 東京都千代田区  
視察日 令和7年10月23日  
報告者 林 美幸・佐藤一則

**【施設の概要】**

所在地は東京都千代田区九段北にあり、2004年10月に設立されたNP0法人。法人目的（定款目的）は、「自殺リスクを抱えた個人に対する生きることの包括的な支援」を行い、全国の自治体・民間団体等と連携して「生き心地の良い社会」の実現に寄与することを掲げている。

**【自殺対策基本法】**

施行日：2006年（平成18年）10月1日  
施行

目的：自殺の防止及び自殺者の親族等への支援に関し、基本理念を定め、国・地方公共団体等の責務を明らかにし、社会全体で自殺対策を推進すること。

「自殺は個人の問題ではなく、社会全体で防ぐべき社会問題である」という理念のもと制定された包括的な法律。

**【自殺の現状および自殺対策の最新動向】**

自殺の現状は2024年は9月末までに昨年同月比でマイナス約8.9%であり、年間の自殺者は初めて2万人を下回る。ひとりが自殺で亡くなることで135人に影響が及ぶ可能性があることが論文にて公開されており、自殺による影響がとめどなく広がることを危惧される。

**【ライフリンクの自殺実態調査】**

自殺で亡くなった523人とその遺族を対象に行った調査の結果では、亡くなった人は平均4つの悩みや課題を抱え、それが連鎖して自殺に追い込まれる「自殺

の危機経路」が判明している。また、亡くなった人の70%が生前に専門機関に相談しており、44%が亡くなる1ヶ月前に相談している結果がある。日本の自殺対策において、自殺は追い込まれた末の死として捉えられており、包括的な支援と地域づくり社会づくりでもある。

**【こども・若者の自殺対策について】**

高校生以下のこどもの自殺は、2022年514人と過去最多となり、2023年も513人と高止まりをしている。10代20代の死亡原因の1位は自殺であり、「ノーマークのこども」が亡くなる厳しい現状に政府は「こどもの自殺対策に関する関係省連絡会議」を設置し「こどもの自殺対策緊急プラン」をまとめた。こどもの1人1人台端末を活用した自殺リスクの把握や都道府県などの「こども若者の自殺危機対応チーム」の全国設置などを提起している。

**【考察】**

自殺は追い込まれた末の死とされており、自殺の危機経路とした複雑化・複合化した悩みを包括的に支援する必要があることが、実態調査からもわかるため、関連事業・支援策を総合的に推進していく必要がある。そのためには、SNS等地域連携包括支援事業における「連携自治体事業」として包括的に支援で相談者が地域で安心して生活を整えることが必要。

SNS等地域連携包括支援事業における「連携自治体事業」としてライフリンクと自治体が連携して「生きるための包括的な支援」を行うことは、

1. つなぎ支援
2. ハイリスク者向けを想定した連携自治体専用アカウント
3. 相談支援の質の向上

と、支援に関する新たな施策や支援体制、つながりの構築等が可能となる。

那須塩原市自殺対策計画（第2期）の年代別の割合令和元(2019)～令和5年（2023）年の5年間の累計でも、本市は、国や県より割合が高く、子ども・若者への自殺対策の一層の推進や効果的な情報発信・啓発活動が求められているため常任委員会としても対策を提案していく。



NPO法人自殺対策支援センターライフリンクにて

れもんハウス  
子どもショートステイについて

視察地 東京都新宿区  
視察日 令和7年10月23日  
報告者 松野真弓・金子哲也

東京都新宿区にある一般社団法人青草の原が運営する子どもショートステイ「れもんハウス」の視察を行った。

この「れもんハウス」はいわゆる子ども支援センターとは一線を画し、場所は西新宿の住宅街の小さな一軒家。ぱっと見では一般家庭を思わせるような佇まいで我が家に帰ってきたかのような雰囲気が漂う。

運営するスタッフを「イルひと」と呼び、そのイルひとが様々な事業に関わっている。主な事業は居場所づくり事業、れもん留学と呼ばれる短期宿泊事業、地域の子どもや大人たちがれもんハウスを介して地域と繋がりを作る活動、勉強会や講演活動など。

また国の子ども・子育て支援の一つである「子育て短期支援事業」において、新宿区では3歳未満の子どもは乳児院、3歳以上は「協力家庭」という一般の家庭でのショートステイの受け入れを行っているが、れもんハウスは年齢の垣根を取り払い、子どもでも親子一緒でも、若者でも、と「お母さんだから」「お兄ちゃんだから」「家族だから」そんな役割を背負うことがしんどい時は、子どもはみんな育てよう、困ったときはお互いさまをコンセプトにイルひとが利用者に寄り添いを行っている。

イルひとはシフト制で、いろいろな大人が子どもと一緒に生活をするすることで、子どもたちは様々な価値観や生き方に出会い、またイルひとの多くは子育て未経験者であるが、そこで子育ての大変さや面白さを学び、大人と子どもが共に成長できるシステムもまたこのれもんハウスの特徴である。

この施設を開設するにあたり、代表者は、出会ってきた親子のしんどさの一つ

は、親と子、家族として「こうあらねばならない」というという理想像と現状のギャップであったと話す。昨今、「子どもを預ける」ということに偏見を持つ人は少なくなってきたはいるが、まだその偏見がすべて消えた訳ではない。実際、偶然にも視察当日、那須塩原市民の利用者とれもんハウスで出会い、話を聞くことが出来た。

「那須塩原にはまだまだ親が子どもを預けて自分の時間を持つということに対しての偏見が色濃く残っている。だから私はこのれもんハウスまで通ってきている」

この言葉はこれからの本市における子どものショートステイ事業に対して大きな課題となるであろう。

母親も母親である前に一人の人間であること、子どもは親の元で育つことだけが幸せであるとは限らないこと、それが例え他人であってもたくさんの大人たちの愛情に囲まれて過ごすことが子どもの感性を豊かにすること。

唯一無二のこの施設では居場所づくりの新しいスタイルを見ることが出来た。

今後の本市においてのショートステイ事業の拡充に向けて、利用者が「ただいま」と、そして迎える側が「おかえり」と言えるような、人が人として温かい関係性を築き、ただ「預かる」だけではない繋がりが持てる居場所が必要であると感じると共に、貧困やひとり親など様々な事情を抱えた家庭だけではなく、親が、また子どもが一人になりたい時に気軽に利用出来るものになるために偏見をなくしていくマインドの変換の必要性も感じた。

今後こういった施設の需要は更に高まるであろうと思われるため、今回の視察を活かし、本市の子どもたちにも子育てをする親にとっても拠り所になるような環境を提供していきたいと思う。



れもんハウスにて

## 杉並区立第一小学校 現地視察について

視察地 東京都杉並区  
視察日 令和7年10月24日  
報告者 齊藤誠之・中村芳隆

本市では、地域学校協働本部を全小中学区にて設置しており、2年前からは、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）制度の導入を3年かけて順次行っている。

学校運営協議会は、学校と地域住民・保護者が一体となって学校運営に参画する仕組みで、コミュニティ・スクールの核となる機関で、主な役割は、学校運営の基本方針の承認、学校運営に関する意見を述べること、教職員の任用に関する意見を述べることの3つである。地域に開かれた学校から、地域と共に子どもを育てる「地域とともにある学校」を目指すために運営されるものです。

今回は先進地として、東京都杉並区立第一小学校へ視察に伺いました。

当小学校では、「朝先生」という取組を実施しており、その始まりは平成19年度から。毎週2日（現在は火曜日と金曜日）、授業開始前の職員朝会をしている時間に、各クラスに地域の方が入って、読書の時間や、百人一首、そして計算チャレンジの指導をしている。ただ見守るのではなく、残り数分の時間に、地域の方々が、児童たちに本の説明や、地域の情報などを伝えている。

終了後には、朝先生が日誌を作成し、その日の児童の様子を先生と共有できるよう工夫しています。

また、朝先生が担任の知らない児童の一面を発見することもあり、先生の多面的な児童理解につながっているという点もあります。

また、当日はPTAの担当がお茶当番をしており、先ず気になったのが、働いている保護者がこの時間に参画し協力をしている点でした。実際に会長さんにお話をお伺いすると、先ほども記述した、朝

先生の後の日誌を作成し報告する、振り返りの時間を拝見したときに、自分たちの子どもの為に、ここまで地域の方々が熱心に活動されているんだと、心をうたれ、現在は90%を超える加入率のPTAでお茶当番を回しているようです。

朝先生となるスタッフは20名以上いるというが、現在は1年間同じ先生（地域の方）が担当しているということも特徴、日々人を入れ替えるのではなく、同じ担当とすることで、顔が見える関係になり、ほどよく子どもたちと繋がれるということでした。これも素晴らしいことであり、なかなか実施し続けることは難しいなか、実践されていることに驚きました。

また、朝先生の取組みのあとに、立ち上げ当初から関わっている地域コーディネーターを担っている伴野さんの思いと取組みについてもお話を伺うことが出来ました。

学校運営協議会は基本方針を承認するだけではなく、その方針に基づいて、将来の児童生徒像を描きながら、先生たちと共に必要な活動を役割分担しながら事業を行うことだと思っています。

まさに伴野さんの取組みは有言実行であり、各学年の先生方と毎年度3月には次年度の取組みについて話し合っているということでした。

1年生から6年生まで、それぞれに設定しているテーマについて、6年間をとおして、積み重ねていく特色ある教育活動を行う際に、地域としてできることを、地域を活用して実施しているという点で大きな感銘を受けました。

例としては1年生、「大風作り」、2年生、「アサガオ配り」、3年生、阿佐ヶ谷地いきちようさ隊」4年生、「ユニバーサルデザインから考えよう」5年生「起業家体験チョコレート販売」6年生、「阿佐ヶ谷ジャズストリート」とこれらの取組みは、目を見張るものがあり、とても参考になりました。

那須塩原市の教育についても地域との

連携は誇れるものがありますが、先生たちとの連携については、まだまだ一線を画している感は否めません。

先生方が直接地域の方々と連絡を取り合うことも重要ですが、地域の方々のネットワークを使えばさらに充実した教育活動ができるもと考えます。

今後、本市の地域との協働に関しては、これらをヒントに、市内全学校にて先生方との連携のもと、地域全体で児童生徒を育てていくという思いを、これまで以上にもって、形にしていこうと思えました。



杉並区立第一小学校にて

## 武蔵野プレイス 複合施設の運用について

視察地 東京都武蔵野市  
視察日 令和7年10月24日  
報告者 星野健二・平山武

武蔵野市は東京都のほぼ中央に位置し、東西6.4km、南北3.1kmで平坦な地形にめぐまれ、昭和22(1947)年に特別区に隣接する郊外住宅都市としてスタートした。豊かな財政力に支えられ、緑豊かな住宅都市と教育・福祉・健康・文化・スポーツ・情報などの生活型の産業が高度に集積し、調和した生活核都市として発展し、住んでみたい街としてのイメージが定着している。現在は、人口約14万8千人で23区と多摩地区を結ぶ東京の「芯」となっている。

「武蔵野プレイス」は、図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしている。

武蔵野プレイスは、人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育といった横断的な活動や交流のネットワークの活性化を促します。多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間（場）は、地域社会の魅力を高めることに寄与している。

「場」＝「プレイス」ということばには、このような期待が込められている。武蔵野プレイスの4つの機能

### 1. 図書館機能

施設の基幹機能として、他の機能と連携・融合するため図書フロアを分散配置させフロアごとに特色をもたせる。さまざまなライフステージに対応した滞在型の図書館。

図書館機能

滞在型の図書館

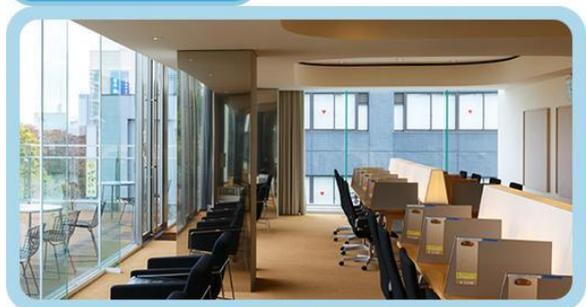


### 2. 生涯学習支援機能

学びたいときに、いつでも学び始めることができる「場」として、人それぞれの生涯学習スタイルに合った環境を提供。また、市民や地域の教育機関・団体・企業・施設と連携して、多様な生涯学習事業を実施。

生涯学習支援機能

さまざまな学びの欲求に応える



### 3. 市民活動支援機構

現在活動している個人や団体、またこれから活動を始めようとする人に対する支援。市民活動に役立つ書籍等の資料閲覧ができ、団体ファイルによる団体情報発信の場。

登録市民活動団体数 208団体  
(令和7年3月末現在)

市民活動の「出会い」と「場」 市民活動支援機能



### 4. 青少年活動支援機能

青少年が気軽に安心して過ごすことができる青少年の居場所づくり。さまざまな講座やイベントへ参加してもらうことで、青少年同士が関係性を構築し合い、将来的に地域社会へ積極的に参画できる力を育てていけるよう、未来を担う青少年それぞれに合った活動を支援。

居場所づくりから地域へ 青少年活動支援機能



● 4つの機能を複合的に活用⇒【アクションの連鎖】⇒知的な創造や交流を生み出し地域社会(まち)の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指している。

### 館内構成



### 考察

施設全体は、「居心地の良さ」「偶然の出会い」「多世代の交流」をテーマとしており、利用者が年齢や目的を超えて自然に交わる空間づくりがされていると感じた。



武蔵野プレイスにて